

電力技術研究会専門部会シリーズ 情報制御通信専門部会

情報制御通信専門部会は、平成13年度に3回の部会を開催しました。平成14年度は、以下の4項目を活動方針として取り組んでいます。

価格競争力強化および経営基盤強化のための技術開発

次世代情報システムの基盤技術・応用技術開発
総合的なエネルギー供給に関する技術開発
基礎および将来技術

5月13日の第26回の部会では、「気象レーダによる発雷判定の精度向上について（制御通信部制御G）の研究発表を行い、活発な議論および意見交換が行われました。委員より、「5種類あるパラメータの重み付けにより、さらなる精度向上がはかれるのでは？」、「空振り率」よりも「捕捉率」を重視する等、用途に合わせ適性化すべきでは？」等の指導・助言をいただきました。

以下にその内容を紹介します。〔発表概要〕

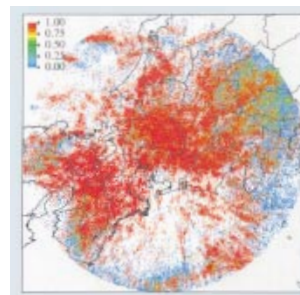
昭和57年に設置した旧気象レーダシステムについては、平成12年3月の老朽化取替工事により、レーダ本体にドップラー機能を付加すると共に、解析装置に新規開発した発雷判定アルゴリズムを搭載し高機能化を図った。

平成13年度には、主として地理的条件によりレーダ電波の遮蔽割合が多い地域の発雷判定精度の向上を目

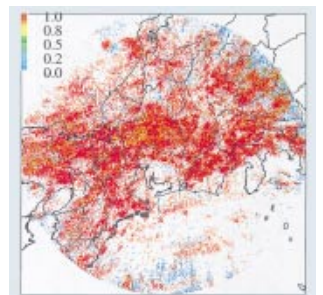
的として、発雷判定パラメータ(鉛直方向積算水分量、雲頂高度、雲頂温度等5項目)の調整を行い、観測範囲全体の捕捉率を前年度と比較し約10%程度向上させることができた。今後も実績データを蓄積すると共に、更なる精度向上を目指す。

第1表 捕捉率の変化

	H12年度		H13年度
調査期間	H12 6/1～9/30		H13 6/1～9/26
落雷観測数	410,939		273,375
捕捉率(強雷のみ)	72.1%	13.0	85.1%
捕捉率(中雷以上)	75.0%	13.4	88.4%
捕捉率(弱雷以上)	79.3%	10.3	89.6%



第1図 H12年度弱雷以上の捕捉率：79.3%



第2図 H13年度弱雷以上の捕捉率：89.6%

(色付けされた部分が個々の落雷地点を示し、赤→青に従って捕捉率が低くなることを示す)

「電力ソリューションフェア2002」開催される 営業部 都市・産業エネルギーG

去る8月6日(火)～8日(木)の3日間、名古屋市の吹上ホールにおいて、当社と中部地方電気使用合理化委員会は、「電力ソリューションフェア2002」を開催した。

今年で11回目となる展示会は、「豊かな社会を拓く快適エネルギー」をテーマに掲げ、お客さまのエネルギー利用に関わる多様なニーズにお応えするため、従来のエコアイスを中心とした蓄熱式空調システムの紹介に加えて、SMESなどの瞬時電圧低下対策デバイスや省エネルギーサービスなども紹介、さらに、通信・技術開発分野での最新の状況など、当社グループが提供できる各種ソリューションメニューを、総合的かつ具体的に紹介した。

中でも、SMES、医療廃棄物処理システム、躯体蓄熱式空調システム、蓄熱式冷凍冷蔵ショーケースといった当社技術開発本部とメーカー、ゼネコン各社等が共

同開発した展示に注目を集めた。

この他、約60の関係企業・団体の展示協力をいただくなど、開催3日間で約1万5千人の来場者を迎え、盛会のうちに幕を閉じた。



テープカット風景